

横芝の碑

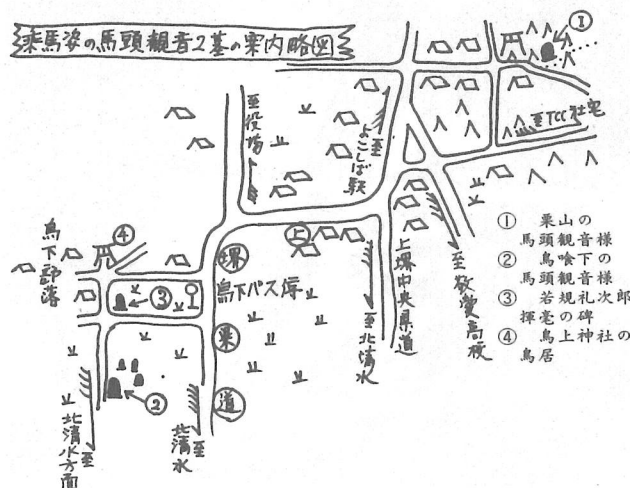
(その七十二)

乗馬姿の馬頭観音様その後

このシリーズその四十一で、北清水延命寺の乗馬姿の馬頭観音様をご紹介しました。その後「このお姿は何と呼びするのか」、「どんなことを守護されるのか」、「なんとなくになりましたので、それとなく心当りを調べておりましたが、そのうちに「延命寺の乗馬の馬頭観音様はもと道端に建っていたのではないか、栗山か鳥喰方面の道端に同じ姿の石像を見たことがあ



▲ ① 鳥喰下と ② 栗山の馬頭観音様



頭観音様と同じように呼んでいるのです。

栗山の馬頭観音様は、昔、いつてもまだ四十〜五十年前のことですが、今の横芝小学校のあたりから、栗山の庚申前に通ずる道路がありました。その道は栗山新田と庚申前を直角に結んだ附近から馬路と呼ばれる細い路に繋(つな)が(つ)って、この路は畑や林の中を通って栗山新田や鳥喰新田に通じていました。その分れ道の端に建っていたのだそうです。そこに人々がツチトリバと呼んでいた馬の蹄(ひづめ)を切る作業場がありました。人に飼われている馬は四本脚の爪が揃いに伸びるので、

人間が平均に切揃えてやったのです。ツチトリバというのは、ツメトリバが転じたのか、爪を切る前に土を払い落とさなければならぬので土取りと呼んだのかその理由はよく分りませんが、馬頭観音様の建っている爪切場というので、農耕馬、荷馬車など馬持ちの人々は、随分遠くからも爪切りに来るので、なかなか栄えたということ。そのうちに土地改良、道路改修などが行われたりしました。馬頭観音様も他に移さなければならなくなり、一時は信仰心の厚い民家の庭に祭られたりした後、現在の場所にお祭りされたという話です。石像の表面両側には、文政三年(一八二〇)十一月立、省村郎中、と刻まれています。

鳥喰下の馬頭観音様は、数年前までは、今は廃道になってしまった浜街道と呼ばれる栗山方面から鳥喰新田を経て鳥喰下に入り、ここから新島新田および北清水方面に通ずる道路の畔に建っていたのを道路改修の時ここに移してお祭りしたものだということです。石像の右側面には寛政十二申(一八〇一)三月吉日と刻まれています。

道中安全の守り神(?)

北清水の石像には年号が入っていませんし、鳥喰下の石像に



小沢春光氏寄稿

文化財審議会委員